

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島市立大鳥中学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ V （複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	学校名 福島市立大鳥中学校 対象学年 全学年 クラス 全クラス 参加人数 166名（生徒153名 教職員13名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	東京オリンピック・パラリンピック競技大会が、子どもたちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、生徒のよさを更に伸ばしていくための取組を確実に推進していく。
5 取組内容	講演 「スポーツによる生きる力」 講師 北京オリンピック女子バレーボール日本代表選手 櫻井 由香 氏 実技指導 男女バレーボール部1, 2年生 26名 (男子15名、女子11名)



6 主な成果	<p>今回の講演を機会に、生徒たちはスポーツのすばらしさ、スポーツによる人生の豊かさについて、改めて考えることができた。また、スポーツをするだけでなく、「みる、ささえる」という観点からも考えることで、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高くなり、より身近なものとして捉えることができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>講演を開催するにあたって、講師は、本校に部活動のあるバレーボールのオリンピック選手を選択した。講演前には、ワールドカップが日本で開催され、ナショナルチームの活躍により、国内で盛り上がりを見せ、本校でも多くの生徒たちがテレビで観戦していた。また、保健体育の授業でバレーボールを実施しており、全生徒がバレーボールを経験していることもあるため、いっそう興味・関心が湧くように、実技を織り交ぜた講演を依頼した。</p>
8 主な課題等	<p>東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催年度は、多くの地域で関連事業が開催されることが予想されるため、講師の確保は早めに進めなければならない。</p> <p>また、限られた予算であるため、人選には苦慮することもある。個人での契約または行政からの依頼であれば、予算の範囲内で講師を確保することも可能である。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>本校はこれまで、スポーツの意義はもちろん、おもてなしや障がい者スポーツへの理解を含めた取組を進めてきた。</p> <p>オリンピック・パラリンピック開催年度は、「ささえる」という観点でオリンピック・パラリンピック教育推進事業を進めていく。</p> <p>ソフトボール競技観戦も予定されているため、試合を観戦するだけでなく、会場内はもとより、学校から会場まで、そして会場付近など、さまざまな場面で多くの人たちがオリンピックに関わっていることを理解させたい。そして、「ささえる」という観点で、オリンピック・パラリンピックを考えさせることで、自己の生活を振り返りながら、レガシーとは何か、何を残すことができるのかを、生徒たちに求めていきたい。</p>